

# 令和元年産雑豆の 作付面積と生産状況について

(公財) 日本豆類協会

## 1. 令和元年産雑豆の作付面積

農林水産省大臣官房統計部では、令和元年10月29日付けで「令和元年産大豆、小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の作付面積」について公表しました。ここではその調査結果から雑豆に関する部分を抜粋して、下記のとおり紹介します。

### (1) 小豆

小豆の作付面積は2万5,500haで、前年産に比べ1,800ha（8%）増加した。

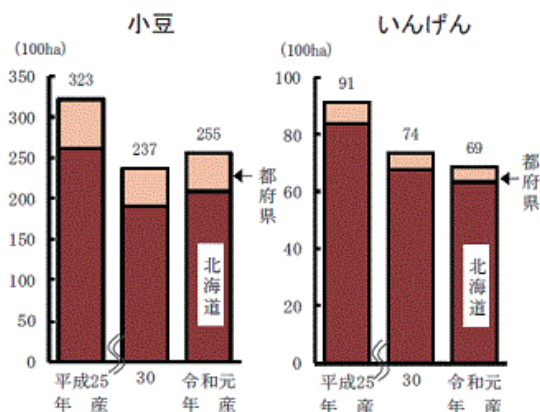
このうち、主産地である北海道の作付面積は2万900ha（全国の約8割）で、てんさい等からの転換により、前年産に比べ1,800ha（9%）増加した。

### (2) いんげん

いんげんの作付面積は6,860haで、前年産に比べ490ha（7%）減少した。

このうち、主産地である北海道の作付面積は6,340ha（全国の約9割）で、他作物への転換により、前年産に比べ450ha（7%）減少した。

小豆及びいんげん（乾燥子実）の作付面積の推移



(参考)

①小豆及びいんげん（乾燥子実）の作付面積の推移（全国）

単位：ha

区分	小豆			いんげん		
	計	田	畑	計	田	畑
平成22年産	30,700	6,080	24,600	11,600	502	11,100
23	30,600	5,760	24,900	10,200	423	9,760
24	30,700	5,290	25,500	9,650	404	9,250
25	32,300	5,140	27,200	9,120	365	8,760
26	32,000	4,800	27,200	9,260	301	8,960
27	27,300	4,040	23,300	10,200	330	8,910
28	21,300	3,350	17,900	8,560	292	8,270
29	22,700	3,240	19,400	7,150	318	6,840
30	23,700	3,430	20,300	7,350	308	7,040
令和元年産（概数）	25,500	3,520	22,000	6,860	305	6,560

資料：農林水産省統計情報部『耕地及び面積等計』（以下同じ。）

②小豆及びいんげん（乾燥子実）の作付面積の推移（北海道）

単位：ha

区分	小豆	いんげん		
			(金時)	(手亡)
平成27年産	21,900	9,550	6,260	2,720
28	16,200	7,940	6,170	1,200
29	17,900	6,630	5,070	1,060
30	19,100	6,790	5,140	1,210
令和元年産（概数）	20,900	6,340	4,590	1,360

③令和元年産小豆（乾燥子実）作付面積

全国・主産県	計			田			畑		
	作付面積(ha)	前年産との比較		作付面積(ha)	前年産との比較		作付面積(ha)	前年産との比較	
		対差(ha)	対比(%)		対差(ha)	対比(%)		対差(ha)	対比(%)
全 国	25,500	1,800	108	3,520	90	103	22,000	1,700	108
うち北海道	20,900	1,800	109	1,490	20	101	19,400	1,800	110
滋 賀	83	30	157	73	33	183	10	3	77
京 都	447	△6	99	422	△5	99	25	1	96
兵 庫	786	79	111	745	79	112	41	0	100

④令和元年産いんげん（乾燥子実）作付面積

全国・主産県	計			田			畑		
	作付面積(ha)	前年産との比較		作付面積(ha)	前年産との比較		作付面積(ha)	前年産との比較	
		対差(ha)	対比(%)		対差(ha)	対比(%)		対差(ha)	対比(%)
全 国	6,860	△490	93	305	△3	99	6,560	480	93
うち北海道	6,340	△450	93	250	0	100	6,090	450	93
うち金時	4,590	△550	89	…	…	nc	…	…	nc
手 亡	1,360	150	112	…	…	nc	…	…	nc

2.令和元年産雑豆の生育状況（北海道）

北海道庁では、営農指導を的確に行うため、5月15日から10月15日までの間、毎月2回、農作物の生育状況を調査した結果を公表しています。9月以降の気象状況と雑豆の生育状況は以下のとおりです。

（9月1日現在）

8月の気温は上旬は高かったが、全体としては平年並で、降水量は低気圧や気圧の谷の影響で平年より多く、日照時間は太平洋側を除いて平年より少なかった。

- ・小豆については、着莢数は少ないものの、生育は平年並に推移している。
- ・菜豆（金時）については、着莢数はやや多く、生育は平年並に推移している。

（10月1日現在）

9月の気温は、平年より高く推移し、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多かった。

- ・小豆については、生育後半の着莢が多かったことから、登熟が遅延し、収穫作業が遅れている。
- ・菜豆（金時）については、収穫作業は、平年並に終了した。

（10月15日現在）

10月前半の気温は、平年より高く推移し、降水量は平年より多く、日照時間は平年並であった。

- ・小豆については、登熟の遅延により、収穫作業が遅れている。